

## 各WGにおける検討の進捗状況

## (介護プロフェッショナル)

## ①実証事業の実施状況

- 介護プロフェッショナルWGが策定した「できる」の評価基準案、評価方法案の妥当性等を検証するため、23年12月から24年3月にかけて実証事業を実施。

## ア. 対象事業所・施設の類型

特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、訪問介護、通所介護、グループホーム

## イ. 実施地域

4都県（福島県、東京都、千葉県、広島県）で実施（青森県でも1施設で実施）

## ウ. 参加事業所・施設等の状況

事業所・施設数：約140 内部評価者数：約230人 被評価者数：約800人

## ②制度のスキーム、評価基準（参考資料4・5・6）

- 実証事業の結果を踏まえ、介護プロフェッショナルWGにおいて「できる」の評価基準の見直し（※）等を行い、制度のスキームや評価基準をとりまとめた。

※ チェック項目が多い、同じような項目が重複しているとの指摘を受け、大半の被評価者が「できる」と評価された項目の中で重要性の低い項目の削除、相関性の高い項目の統合等を行った（チェック項目：228→148）。

- 「できる」の評価基準は、大項目（3項目）・中項目（13項目）・小項目（41項目）・チェック項目（148項目）で構成。大項目については、「基本介護技術の評価」、「利用者視点での評価」、「地域包括ケアシステム&リーダーシップ」で構成。

## (カーボンマネジャー)

## ① 標準育成プログラムについて（参考資料7）

「標準育成プログラム」（レベル1～4）について、第9回WGにおいてとりまとめた。

## ② 実務経験等に係る評価基準等について（参考資料8）

「実務経験等に係る評価基準等」について、第10回WGにおいてとりまとめた。

## ③ 認定事業の実施体制

- 第6回タスクフォースにおいて示された認定事業の実施体制について議論。制度の浸透に向けた普及啓発のあり方や認定者へのインセンティブのあり方等について、引き続き検討することとした。

## ④ レベル認定対象者の取扱い（参考資料9）

- 標準育成プログラムが公開されていることから、これを踏まえた研修については、育成プログラムの認証を事後的に受けた場合であっても、遡及して認証の効力を発生させることとした。

- 平成23年度の実証事業受講者（217名）については、初回の認定テストの対象とし、制度開始後速やかに認定作業を進めることとした。
- 平成23年度以前にカーボンマネジャーの標準育成プログラムに関連する研修・講座を受けた者について、レベル認定委員会による研修内容の認証を受けること等を条件に、研修時間の短縮を認めることとした。

#### （食の6次産業化プロデューサー）

##### ① 実証事業の実施状況

- 23年12月より24年3月まで、既存の人材育成プログラムの提供機関（7教育機関）・卒業生や高い実績を上げている実践者（31名）に対するヒアリング調査を実施。

##### ② 評価基準の概要（参考資料10・11）

実証事業の結果を踏まえ、制度のスキームや「できる」の評価基準・プログラム認証基準を取りまとめた。

- 「できる」の評価基準は、「売上・収支」、「商品・サービスの開発」、「販路開拓・プロモーション」、「連携・コーディネート」、「その他のアピールポイント」を加点評価できるものとする。
- プログラム認証基準は、「6次産業化の関連法規・諸制度」、「経営・ビジネスプランニング」、「食品安全・衛生管理」、「食品の生産・加工・流通」から構成する。